



# 第22回日韓労働者交流登山大会

## Part3

### 韓国3日目ソウル交通公社指令室&東大門乗務員区見学

ソウル交通公社指令室見学にあたり、元 ICLS 韓国委員会元執行委員長で、現ソウル交通公社労働理事のパク・ヒソクさんから「東労組青年部の減少に心を痛めている。残っている人が奮闘すれば元に戻ると信じている。元に戻ったら日韓関係を強化したい」と激励を受けました。また、労働理事について説明を受けました。



#### 政治から労働環境が変わる

○労働理事とは

韓国では、日本で言う会社の取締役会を「理事会」と呼んでいます。つまり、パクさんは労働者でありながら常務取締役執行委員という事になります。労働理事制度は、法律ではなく自治体の条例で決まっており、制定には各知事の力が必要だという事です。この間の、労働者の要求によって実現した条例であり、会社も政治家も嫌がっている制度になっていると教えてくれました。また、理事会では、発言権と議決権も持っており会社の様々の施策等に対して、労働者側の意見を言えるなどの特権がある。けれども、組合員ではなくなってしまう。しかし、どんなことがあっても労働者魂はブレることはないとおっしゃっていました。



指令室見学では、ソウル地下鉄の運行・電力・信通・施設など一カ所での管理ではなく、各々が分かれていて連携していました。運行管理は ATOS のように自動で管理されていて、異常時は手作業による制御をする。ホームドアなどが正常に動作しているのかも指令室で管理していました。また、線路と架線はモニタリング装置を使って指令室から異常がないか管理していました。

東大門乗務員区は、日本の山手線に当たる環状線を担当する線区で、1周1時間30分。それを日勤だと3周するのが1日の勤務だそうです。明け番は、初日3周、明けで1周が勤務となっているそうです。(日勤で6時間乗務すると言ったら「乗り過ぎだ!」と怒られてしまいました。)

アルコール検知は働いている全職員(管理者も含め)がやるようになって日本より厳しく管理されていました。

また、日本と韓国の労働者の休憩に対する考え方の違いに驚きました。休憩は、リラックスさせるものという概念から「マッサージチェア室、読書室、学習室、映画・ゲーム室、フィットネスジム室、食堂室」といったJR東日本の乗務員区ではあまり考えられない設備が整っていました。これらも労働組合の要求により実現してきたものであり、これでもまだまだ満足していないとおっしゃっていました。



今の職場環境に満足していませんか?

休憩はリラックスできる環境になっていますか?